


令和3年度  
久勝小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

進んで学び、仲間と深め、自信をもって学習する児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 坂東 孝子	委員	校長	井形 啓二	教頭	石丸 秀樹
		教務	日岡 健二		
		低学年 高学年	福嶋 理絵 竹内 貴啓	中学年	矢野 将啓

校長  
井形 啓二 

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観を定期的に行い取組状況の把握を行うとともに、様々な機会を捉えて教員間の共通理解を図る。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや整数の四則計算等については、8割以上の児童に定着が見られる。 ●学力に個人差がある。	・課題に進んで取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けている。 ・学習の過程で身に付けた知識を既習の知識と関連させることができる。	・指導と評価の一体化をめざし、授業改善を行う。 ・児童が興味を持って取り組むことができるよう、問題提示をICTを使って視覚的に提示したり、発問を工夫したりする。 ・書かれていることを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・定期テストで80点以上の児童8割を目指し、漢字、計算のミニテストを繰り返し行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア学習やグループ学習で意見を交換したり、まとめたことを発表したりするなどの表現活動に意欲的である。 ●問題解決のために必要な情報や知識・技能を選択し活用する力が十分には育っていない。	・各授業において、話し合い活動等を通してよりよい解決方法を考えることができる。 ・互いに考えを伝え合う活動を通し、自分の考えや集団の考えを発展させ、それを表現することができる。	・ペア学習やグループ学習をディスタンスを確保して取り入れる。 ・ホワイトボードを効果的に活用し、発表や話し合い活動を充実させる。 ・児童が考える場面を意図的に増やす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○何事にも興味・関心をもって学習に取り組むことができる。 ○方法や手順がわかる学習には真面目に取り組むことができる。 ●自ら問題を見つけて取り組んだり、解決する方法を工夫したりすることに課題がある。	・各教科の学習に粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を見つけてそれを解決しようという意欲をもち学習に取り組むことができる。	進んで学び、仲間と深め、自信をもって学習する児童の育成を目指し、次のことに取り組む。 ①授業のめあてを提示し、児童が見通しをもって授業に取り組めるようにする。 ②授業の最後に振り返りを行い、次の学習へのつながりを意識させる。 ③板書と連動し、児童の思考の流れが分かるノート指導を徹底する。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

